●今月の表紙●
field：印旛沼
photo：本誌・伊藤洋一
layout：本誌・里

へら鮒

Monthly fishing magazine herabuna Contents

「へら鮒」の題字/叶 九隻

No.472
Mar.2005
4

さらに8釣り場追加！
管理釣り場割引クーポン券

p.165～

野田幸手園　椎の木湖　清遊湖、
谷和原大沼　隼人大池　上尾園、
F.A吉羽園　谷養魚場　将監
柳生FP　筑波白水湖　泉堰
逆井HC　友部湯崎湖
水藻FC　甲南へらの池
芦田湖水光園　三和新池
狭山HC　新座LC　川越FC
府中HC　当麻池　多賀釣池

10　特集　春の足音を探しに…

本誌編集部員が、春を探して真冬の野を駆け回る!?

72　黒べゑ提供　お年玉プレゼント当選者発表!!

COLOR（カラー）

26　名手・石井旭舟がいく、へら鮒出会い旅…　**へらぶな浪漫街道**
《第二十七回》多賀釣池

34　新連載　**小池忠教 激釣大全**
《第二回》清遊湖

42　**杉山達也のSPLASH BEAT Ⅲ**
《Vol.11》真冬&日曜日の椎の木湖!!

48　**棚網 久 あなたの夢を叶えます。**
「G魂を注入して下さいッス! 2」
ドリーマー:半田雄也さん　釣り場:筑波白水湖

53　**国際フィッシングショー 2005**

56　**フィッシングショーOSAKA2005**

★AREA　REPORT

58,66　清久大池,清久西池,久喜菖蒲公園・昭和池（埼玉県）　本誌・伊藤洋一
60,68　柴山潟（石川県）　山本一朗
61,69　佐屋川温泉前寄せ場（愛知県）　後藤 誠
62,70　水藻FC（大阪府）　前田誠志
63,71　兵庫の新堀（佐賀県）　河口正伸

134　**竹とともに生きる。**
《第21回》美峰　滝本恒雄

137　**戸張 誠　野釣り道場**
《第十一回》【戸面原ダム・春】

142　チョーチン王・田中雅司の深宙奥義伝承　**魚心掌握**
Vol.7【セットのエサ合わせ】嵯峨ら湖

147　**田辺哲男の「それってどーゆーことよ!?」**
《Vol.27》魔王・関川康夫見参!
【4ストローク・深宙バラグル】野釣り編!!

152　**吉川ひとみの「へらってヤバイわっ!!」**
《Vol.33》ひとピー、大阪進出!?　in 水藻F.C

156　**稲毛師匠と編集部諸が行く、ODEKO(オデコ)危険度120%**
《第4回》水戸IC周辺の野池（茨城県水戸市）

160　新連載　**私の宝物**
《Treasure.3》ゲスト:石井碧舟さん

194　**岡田 清　Deep Side Angle**
《Vol.18》【光速セット】笹下つりぼりセンター（神奈川県）

201　新連載　**北川穂積の全国野釣り行脚**
《第3回》六番川遊水池（岡山県）

204　**釣りの帰りに寄りたいお店**
《file.8》東京・綾瀬駅近く【四国亭】の満腹うどん定食

206　**釣果予想クイズ**

208　**フィッシングレディ**
《今月のレディ》岸 祥子さん　柳生FP（群馬県）

MONOCHROME（モノクロ）

73　**浅草へら鮒会　創立60周年記念式典開催!**

74　**石井旭舟氏、地元・上尾市で講演を行う!**

76　**へら鮒釣り　超基本講座**
《第4回》巣離れ、乗込み釣りの超基本

83　あらいしのぶの　**なぜなぜ しのちゃん**
《第4回》「しのちゃん、フィッシングショーに行く」

88　**NHCスピリット**
《Vol.19》棚網 久インタビュー&2005年度開催要項発表!

92　トーナメンター小林恭之が挑む!　**竿頭までぶっ飛ばせ!!**
《Vol.16》隼人大池　マルキュー（株）協賛大会

99　**江成公隆のトーナメンター、復活への道。**
《Vol.34》底釣りゼミ2005 PART2.5!? on Mac

108　**そんなモジリにダマされて…**　天野正由
《その16》釣り堀へ行こう!（府中HC～狭山HC）

114　**水辺のプラネタリウム**　吉本亜土
《今月の星空》「伊藤洋一」

117　**どやさー 今月の釣り場**　西田美明
《その4》「小皿池」 トホホの一日

122　**最狂ヘラ戦士養成所 "鮒の穴"**　漢(オトコ)タカハシ
《第二十六話》【泣くなタカハシ!　愛犬クマの死を乗り越えろ!】

126　**野田幸手園新聞**

162　**ワクワク管理釣り場情報**

171　**小売店情報**

★へら鮒BOX
177　里ちゃんの新米編集長雑記
178　情報発信基地
180　ボイス
186　コラム『へら狂おやじと呼ばないで』　白石和弘
187　コラム『日研だより』　日研広報部長・遠藤克己
188　新連載　コラム『日々是、勉強!』　ホワイト
189　コラム『紀州"想いの竹"のものがたり』　中峯伸行
190　プレゼント発表
191　広告索引
192　編集後記

STAFF

●Producer
根本百合子

●Editor in chief
田中里史

●Editor
大場勝良
諸冨一秋
伊藤小百合
伊藤洋一

●Planner
〈オフィス・えふ〉
藤原　肇

40th Anniversary Year

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆のトーナメンター、復活への道。

〈Vol.34〉底釣りゼミ2005 PART 2.5!? on Mac

「一歩進んで二歩下がる!?」

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web連動企画！ --のハズが更新停滞中！ 《URL》http://hesar.yokohamatsurumi.net

ごめんなさい！

いつもどおりの締めきりギリギリで、江成からの原稿が届いた。ざっと見た感じでは、ちょっと字数が足りないような気もしたが、「まぁいいか」と何気なく読みはじめたその時…
「ちょっと待てーい！【2.5】って何だよ！【Ⅲ】じゃねぇのかよ！」
猛烈に嫌な予感が……… そして、的中（泣）。
読者の皆様ごめんなさい！
「底釣りの話」はほんのちょこっとで、あとの大半は、どうやら一晩で書き上げたらしい「近況報告（グチ）」！
「まったく何を考えとんねん！ 底釣りゼミはどこいったんや！」
沸々とこみ上げる怒りを抑えつつ、どうか江成を勘弁してやって下さいまし…。

by 里ちん

着底。

先月号は季節柄、底釣り記事ラッシュ。大先生方やスーパースター達に混じって、僕も底釣りを語っていることが不思議な気がした。不思議というより場違いな感じ、と言った方がいいかもしれない。もっともそんな感覚には今さら気付いたわけでもなく遥か以前から感じていたし、記事の中で触れたこともあったと思うが、里ちんに乗せられてここまで来てしまった。数え切れない程の誹謗中傷は全て、里ちんがブロックしてくれているのだろう。その誹謗中傷も僕個人を攻撃するだけならまだいいが、僕を起用した里ちんに対するものも当然ある筈で、彼の苦悩は計りしれない（全くそんなそぶりは見せないが）。

僕を起用した理由については、里ちんは今まで色々と書いてくれている。中には持ち上げ過ぎでこちらが恥ずかしくなるようなコメントもあった。だが、彼にとって一番大事なのは僕の「ニュートラル」な部分だろう。もちろんこれは「思想的に」ではなく、「業界での立場」のことである。昨年いっぱいでフジノラインのモニター制度が廃止され、僕は100％フリーになった。読者の皆さんと同じく自分のお金で道具やエサを買い、自分のお金で釣りに行くのだ。

先日、こんなエピソードがあった。

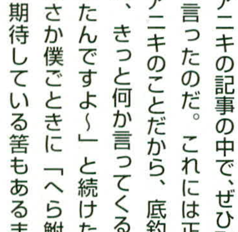
先月号の萩ちゃんの記事の中で、僕は間違いを見つけてしまったと伝えると、里ちんは「アニキの記事の中で、ぜひ取り上げて下さい」と言ったのだ。これには正直言って驚いた。「アニキのことだから、底釣り記事満載の今回は、きっと何か言ってくるだろうとは覚悟してたんですよ～」と続けた里ちんだったが、まさか僕ごときに「へら鮒社の底釣り主任」を期待している筈もあるまい。彼の真意は、「誰に対しても・どこに対しても、何でも言ってしまう江成」というキャラクターをより際立たせたいというところにあるのだと理解した。

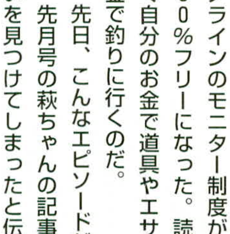
しかし残念ながら「萩ちゃんの記事の中での間違い」は、里ちんのミスなのだ。

「最大の利点」に対する認識が北城氏と違うとはいえ、僕は「フォーリングがキモ」だという萩ちゃんに異論はないし、「流れの有無が着底を選択する重要な基準ではない」というコメントには大いに賛同できる。尊敬する田辺氏の「着底」というネーミングにも脱帽であった。

問題は、3月号150ページ下段にある編集長里ちん力作のイラスト。そこに描かれている外通しオモリの「向き」が「逆」なのだ。実は僕も同じ間違いを犯しかけたことがあったので気付けた。二年前の底釣りゼミで「あとりえぐり」にお願いしたイラスト。締め切り寸前に北城氏に読んでもらった際にクレームがつき、あわてて差し替えた記憶がある。冷静に考えると「ありえない」のに、けっこう勘違いしている人は多い。なぜなんだろうか…。

3月号「田辺哲男のそれってどーゆーことよ!?」内、里ちん作成図の誤り！





崖っぷち。

「誰に対しても・どこに対しても、何でも言ってしまう」という僕のキャラクターがハッキリと形成されたのは、実はここ数年のことである。厳密に言えば「思った事を何でも口にしてしまう」傾向は子供の頃からあって、痛い目を見たことは何度となくあるが、成長していくにつれ直球だけではなく根回しも覚えていった。表面的には敵がグッと減ったように見え、わりと自分の思い通りのペースに持ち込めているつもりになっていく。「とりあえず敵は作りたくない」ので皆にいい顔をする一方で、「自分だけ我慢なんて冗談じゃない」と必死に裏工作。嫌な奴だ。しかし成長しているのは自分だけではないことに気付く日が来る。誰が味方で誰が敵だか分からない「大人の世界」への旅立ちである。

「当り障りなく生きられない」人を、世の中は「不器用な人」と呼ぶ。僕が成人してから知り合った「不器用」だと感じる友人の中に、伝説のトーナメンターO君がいる。彼は好き嫌いがハッキリしており、余計な愛想はふりまかない。どうしてそんなに敵を作るのか、僕には理解出来なかった。やがて性格の不一致から、お互いにイライラが生じ出すと、彼の鉾先は容赦なく僕にも向けられた。

「江成君は八方美人すぎなんだよ！」

僕には返す言葉が見つからなかった。全くその通りだからだ。

「どうしてそんなに嫌われたくないのか？」

僕が彼を理解出来ないように、おそらく彼も僕のことを理解出来なかったのだろう。表裏のない彼は、とても「分かりやすい」人間である。彼がどんなにデタラメな行動をしようとも、実は僕より遥かにピュアな人間なのではないか…。そう感じて以降、僕は彼に対しては感情むき出しでぶつかった。時にはただの駄々っ子に成り下がったこともあった。だが、だからといって彼は僕の変化を喜んで受け入れてくれるようなタマでもなく、残念ながら増々関係が悪化するだけだった。

しかしこれで良かったのだ。

このままケンカ別れでいる方が、いかにも「らしい」と思えるからだ。僕はすでに多くを彼から学んだ。立場を明確にすることで、いつしか本当の味方を得られる日が来るだろう。いや、僕はすでに本当の味方を手に入れているのかもしれない…。

「公」の場で声を大にするには、それなりの覚悟が要る。自分に自信があろうがなかろうが、敵だらけの戦場に放り込まれてしまうからだ。もう、八方美人ではいられない。連載が始まる少し前、僕はノイローゼ気味の日々を送っていた。生まれたばかりの息子がいるというのに、何とも情けない父親である。里ちんから連載の話が来た時点では落ち着いていたが、いつまたショボクレてしまうか分からない不安を抱えていたのも事実だった。しかし「連載」は、「もっと強くならねばならない」と、自分を奮い立たせる最高のきっかけになった。実はこの時、僕はO君の強さに初めて気付いている。

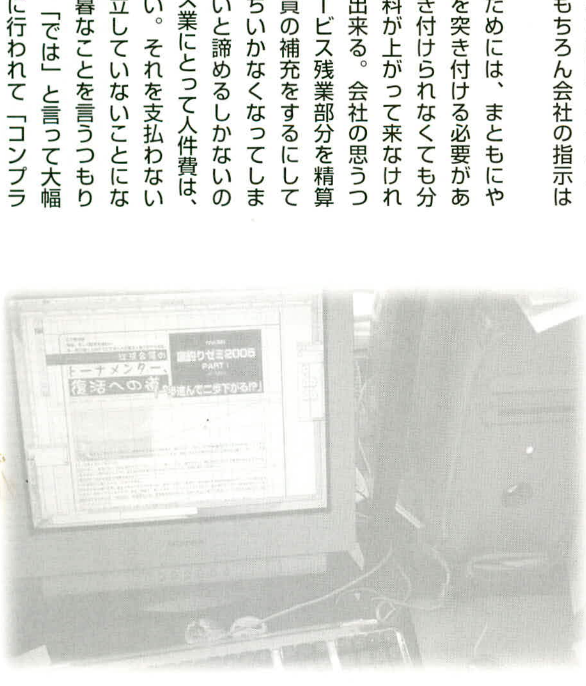
連載開始以降、人間関係に悩んでいたのがウソのように、職場でも僕は日に日に積極的になっていった。休日返上になるケースが多く、皆が嫌がる労組の仕事も喜んで引き受けた。自己犠牲の精神というようなカッコいいものではなく、ただの「ノリ」で引き受けただけだったが、自分でつけた勢いは止まらない。会議があれば、職場の代表として熱弁をふるった。

本音と建前。理想と現実。世の中には表と裏があるわけだが、僕だってそんなことは百も承知である。例えば労働時間。サービス残業が違法だと知りつつも、黙って受け入れるしかないのが現実だと理解している。というより、もはや「憤り」さえ感じないのが、「異常」ではなく「普通」なのではないだろうか。もしどうしても嫌なら、仕組みを変えることよりも、労働者階級を抜け出す方法を考えた方がいいかもしれないとさえ思う。

ウチの会社も流行に便乗し、ここ数年で「コンプライアンス」だと言い出した。「じゃぁ、それまでは違法行為があったと認めるんだな」という話になってしまうが、それは置いておく。ウチの場合、タイムカードはきちんとあって、会社側による改竄(かいざん)もない。年間総労働時間も絶対に守らせる素晴らしい会社である。しかし、この「絶対に」が曲者で、1分でも超えそうなら出社を厳しく禁じられる。タイムカードを押さずに休日出勤など、コンプライアンスの名のもとではもってのほかだからだ。では、残った仕事は誰がやるのか？アルバイトなどいない。労働時間に余裕のある者がケツを拭くハメになるのだ。仲間を守るため…いや、自分が職場で浮かないために、皆「自発的に」早い時間でタイムカードを切るようになる。もちろん会社の指示は一切ない。

職場環境を改善するためには、まともにやったらまわらない現実を突き付ける必要がある。もっとも今さら突き付けられなくても分かっている筈だが、資料が上がって来なければ堂々と見ないフリは出来る。会社の思うつぼだ。だがしかし、サービス残業部分を精算するにしても新しい人員の補充をするにしても、それでは会社が立ちいかなくなってしまうなら、それは仕方ないと諦めるしかないのかもしれない。「サービス業にとって人件費は、製造業の原料費に等しい。それを支払わないとはビジネスとして成立していないことになるのでは？」などと野暮なことを言うつもりは僕「個人」にはない。「では」と言って大幅な賃下げと増員が同時に行われて「コンプライアンス」だと言われても生活出来ないからだ。厳しいご時世である。たとえ不当な労働環境・不当な賃金であっても、会社が無くなるよりはマシ。毎月キチンとサラリーが支払われているだけで満足しなければならない時代なのだ。

今はどこもそうだと思うが、ウチの労組はどう見ても「飾り」である。「建て前」担当の会社側の部署にしか見えない。いや、昔からどこもそうだったんだろう。ただ、僕のオヤジの世代の組合と違うのは、建て前だと知りつつ貫き通す元気の無さだ。何を相談しても、「それは本来あるべき姿ではないよネ…」といった感じの返事が返ってくる。「ネ…」じゃねぇよ。だから、どーすんだよ！　…もう建て前でもいい。組合があるだけマシだ。実行力もなくていいから、旗だけはちゃんと振り続けていてくれ…。今年度、タイムカードの件で僕は自分の「立場」を押し通した。年度末を目前に控え、僕は職場で浮きまくっている。



新人。

僕の仕事は一日の大半をワンマンで過ごす職種だが、僕がメインで担当するエリアと近隣3エリアの担当者とでチームを組んでいる。もう少し詳しく書くと、特に固定のエリアを持たないフリー2名を加えた6名で4エリアをまわしている。年中無休のサービス業のため、毎日交代で誰かしらが休み。なので、それぞれのエリアでメインの担当者が休みの日には、残された者達で補完し合う仕組みだ。

6名で4エリアだから、毎日2人が休める計算になる。1年は365日だから、延べ730回分の休み。コレを実質6人で割ると素晴らしい数字が弾き出されることになるのだが、現実は厳しい。1名欠員で、休みは一気に半減してしまう恐ろしいシステムなのだ。現在僕が所属するチームの状態は、4名で4エリア…。しかし、全員休みゼロというわけにはいかない。可能な限り4エリアを3名でこなし、休みを捻り出す。

年間の休日数も総労働時間と共に、当然コンプライアンスだ。年度末は尻に火がつく。4エリアを2名でまわすよう指示が出たが、まったく馬鹿げている。それでまわるなら日頃から6人も要らないのだ。明日もサービス出勤になるが、上司とは顔を合わせたくない。真顔で「出て来ちゃダメだよぅ～」などとホザかれた日には、おもわず手が出てしまいそうだからだ。

転職してもうすぐ10年になるが、振り返るとまともに人員が揃っていた期間は僅かしかない。僕以降、新人は数え切れない程入って来たが、ほとんど辞めていった。増員は一切認められないが、欠員の補充は数カ月遅れでしてくれる。冗談抜きで、それだけは素晴らしい会社だと思う。自分達の休みに大きくかかわってくる新人の補充。大事に育てない筈が無いのだが、定着率が悪過ぎる。時代だろうか。それとも魅力が全くない仕事なのだろうか。ちなみに我が社の平均勤続年数は8年、だそうだ。オイオイ、いくらなんでも短過ぎやしないか？ 俺っていったい…。

新年早々、チーム待望の5人目となる新人が入って来た。皆で話し合った結果、僕のエリアを担当させることに決まった（僕は数年ぶりのフリーになる。日替わりはかったるい反面新鮮だし、ある意味で責任がない。いい加減な僕にはピッタリである）。教育係を務めたのは僕。その新人は、僕と同い年。当然、話も合う。だからというわけではないが、あまり先輩面はせず、なるべく優しく接するよう努めた。彼に辞められては元も子もないのだ。

彼が独り立ちする数日前、ちょっと時間が空いた日があった。すると彼は、前職や転職の理由などを喋り始めた。そういうことは興味があってもあまり聞くものではない。とくに中途入社が多いウチの職場では誰も喋りたがらないし、そのために絶対に聞かないのだが、彼は僕に心を開いてくれたということになるのだろうか。

「前職は新卒で入社して12年勤めたんですが、このままでは自分の未来がないな、と感じて辞めたんです」

「え？ 出世コースから外れたとか？ それとも会社がヤバいとか、賃金が安いとか？（ていうか大卒だったのね）」

「いえ、業務もひと通り覚えて、もういくらでも楽出来ちゃう感じだったんですね。でもそれでは自分のためにならないな、と。成長できないというか。そこで環境を変えてみようかと思い立ちました」

「マジ？ なんだかスゴイね、ソレ。ふーん…それってやりがいを探してるって話と同じ？」

「まぁ、そう解釈していただいても構いません。」

「で？ すでにこの仕事にやりがいを見い出してるってワケだ？」

「いえ、これから見つけます」

「……（絶句）」

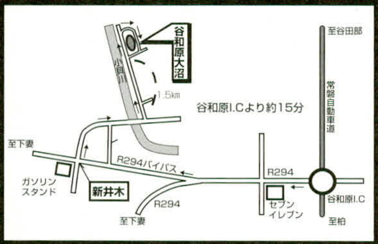
大卒で肉体労働系サービス業への転職。価値観は人それぞれなので、僕にとやかく言うつもりはない。しかし「やりがい探し」には正直、「ヤバいかも」と感じた。日頃から青臭いことをズラズラと書いている僕だが、現実は見えているつもりでいる。そうは言っても会社を辞めたいと感じる日もあるし、里ちんが書いていた「驚愕のオファー」にもいまだに揺れている僕だが、34にもなって「やりがい探し」のために転職するという思考回路はさすがに理解出来ない。就いている職とは別のところにすでに「やりがい」を見い出してしまっていて、覚悟の上で一発勝負に出るのとは全く違う次元の話だ。彼は10代20代の独身男ではない。僕と同じく、女房子供とマイホームのローンを抱えた「お父ちゃん」なのだ。実は転職の本当の理由は別のところにあるが、ちょっとカッコつけようと思って「うっかりバカなこと」を言ってしまったと信じたい。もしくは、親がお金持ちで相当な援助があるとか…。まぁいい。気の持ちようで、どんな些細なことでもやりがいにはなるだろう。見つけられることを祈りたい。

独り立ちの日が来た。カッコいいことを言っていた彼だったが、全く仕事は出来なかった。その日のうちにやらなければならない業務の半分以上が残っていたが、23時頃帰社させた。相手がいる仕事である以上の限界である。もちろん初日から僕ら先輩達と同じレベルを要求するつもりはなかった。通常の1/3程度の仕事量を彼に与え、残りの2/3は僕らで補う計画。そのため、さらに彼をフォローすることは不可能だった。結果的に、彼は一人前の1/6の仕事量でも時間内に終わらなかったこ

大小、様々なへらがぎっしり！ カッツケから底釣りまで、思う存分腕を磨いてください!!

アタる！ 釣れる！

谷和原大沼



●入場料　1日2000円　半日1500円
女性・中学生以下　1500円

●営業時間
4～9月　平日　6:00～16:30
土日祝日　5:30～16:00
10～3月　平日　6:30～16:00
土日祝日　6:30～15:30

●規定　竿7～18尺　タナ・エサ自由
（生きエサ・一本バリ禁止）

〒300-2400　茨城県筑波郡谷和原村根新田228
☎0297-52-2763

大型新べらの強引を味わいに、ぜひお越しください!!

とになるので、いくらなんでもひどすぎるんじゃないか、とは感じた。しかしまだ初日。現場へ出れば、研修で身につけた知識など全く役に立たないほどにイレギュラーの連続である。焦ってパニックに陥り、時間だけがどんどん過ぎていくのは仕方ないのだ。疲れ果て、ショボクレて、形容のしようがないひどい表情でうなだれる彼。どんな仕事でも、覚えるまでは泣きそうなほど辛い毎日だろう。だがそんなことは覚悟の上での転職の筈だ。

「明日になったら、めげずに元気な顔を見せてくれよな」

帰社後の業務は免除し、さっさと家に帰らせた。6、7時間後には再び出勤である。1分でも長く休ませてやりたい僕らの配慮だった。

マルチタスク。

1週間が経過した。全く進歩が見られない。まだたったの1週間だが、日々溜まっていく仕事に僕らのフォローも限界を遥かに超えてしまっていた。さらにタイミングの悪いことに年度末が近い。遅い時間に会社にいるだけで嫌みを言われてしまう。「上」は新人でも頭数に入れているのだ。「ふざけやがって…!」

毎日同じことを聞き、同じミスをする彼に、皆ついつい声を荒げてしまう。

「少しは学習しろよ。やる気あんのか?」

「メモれよ!」

「常識で考えれば分かるだろ!」

「そのくらい自分で判断しろ!」

………など。

皆に責められては救われないと思い、僕はなるべく我慢していたが、

「私、仕事遅いんですよ。どうせトロいんです。ゴメンなさいねー」

…というヤケ気味の一言にキレた。

「ふざけんな! 開き直ってんじゃねぇぞコラ! いいか、誰だって最初は出来ねぇよ。だけど人間、脳味噌の半分も使ってねーんだ。どういう事か分かるか? 誰だって最後は出来るようになるんだよ。それまでに費やす時間に個人差はあるだろうけどよ、努力次第でいくらでも縮められるんじゃねえの? 新人で分からない事だらけで出来ないってのは俺は責めねーよ。けど、やる気のない奴をフォローするのは勘弁ならねぇ」

僕は一気にまくしたてた。優しかったはずの先輩の豹変に、彼は涙を溜めながら懇願してきた。

「…お願いします。私を見捨てないで下さい…」

「お? も、もちろんだよ…おとーちゃん、今が頑張り時だぞ(自分もな…)」

「はい」

彼のリアクションに僕は戸惑った。イマドキであれば、「んな仕事やってらんねーよ、辞めた!」と逆ギレされてもおかしくないところである。こんな事なら最初から厳しく接しておけばよかったと後悔した。

翌日、僕は休みだったが彼に1日付き合った。基本的に一切手伝わず、そばで見てダメ出しをして欲しいと言われたのだ。休みが潰れるのはイタかったが、彼が見せた積極的な姿勢に応えないわけにはいかない。

一切手伝わないでくれと言っていた彼だが、どうしても僕に頼りがちになる。その度に僕は優しく無視し、本当に必要最低限のアドバイスだけ贈った。

「一つひとつの業務にどうしても時間がかかるなら、別のところで詰めるしかない。歩くな。走れ。飯を食おうなんて思うな」

ひどい先輩だと思われるだろうが、それしか時間内に終わる道はないのだ。実際、僕だって飯を食えない日は多い。

午後、彼に缶コーヒーを差し入れた。すると、「いいんですか?」という言葉が。もちろん僕はこう答えた。

「当たり前じゃん。先輩がおごるのが当然だべ～? 遠慮するなよぉ」

すると、

「いえ、そういうことではなくて、飯も食べちゃダメだと言われたものですから…」

ときた。彼は真顔であった…。

「…とりあえず、冬でも水分は補給した方がいいよ。自販機のジュース飲むくらいなら大したタイムロスにならないからね…」

「わかりました。そうします」

コーヒーを一口飲み終え車から降りた彼は、次の目的地へ滑稽なほどの全力疾走。彼が本当に真剣に、必死にやっているのは良く分かった。しかし、車から目的地までは5メートルもない。トップスピードに達する前に、着いてしまう。両手を大きく振るだけ無駄ではないか…。彼の後ろ姿を見つめながら、僕は事態の深刻さにようやく気付いた。

彼を見捨てるわけにはいかない。僕らのチームに配属されたのは何かの縁だし、時間がかかっても育てば貴重な戦力になる。だが、どこまで関っていいのか? 作業上のちょっとしたコツや商品知識を教えるのは、当然僕の役目だ。しかし、それ以前の問題に口を出す義務はないのではないか。僕は彼の家族ではない。最後まで面倒を見切れるわけではない以上、中途半端な干渉は危険だ。また、僕には義務どころか権利もない。彼はすでに立派な社会人として生きている。愛する家族を守る素敵なお父さんでもある。そんな彼の尊厳を傷つけることは、僕には出来ない。

夕方、お客からの電話がひっきりなしにかかってきだす。会社からの業務連絡のメールも多くなり、携帯は鳴りっぱなしになる。彼でなく、僕でも焦る魔の時間帯だ。

それまでは遅れながらも想像以上にスムーズにこなしていた彼。問題がこの時間帯にあるのは間違いない。そして案の定、大ブレーキ。彼は複数の作業を同時進行させる事が出来ないのだ。いや、誰でも同時進行というのは難しい。電話を受けながら、会話と無関係な書類をガンガン記入していくのは無理だろう。同時に作業しようと思っても、どちらかが疎かになるはずだ。普通は、力を入れるべき方を無意識に判断している。彼の場合はその判断が出来ず、両方疎かになる…。悩んだが彼にアドバイス。

「無理しないでひとつずつやっていこう。優先順位をよく考えてね」

根はまだ深かった。中断した方の作業に戻る際、再開ではなくゼロからのやり直しになってしまうのだ。これでは時間がいくらあっても足りない…。完全に「向いていない」と悟った。らちがあかないので手伝おうとすると、

「それでは自分のためになりませんので、結構です。どうかお願いします」

午前中とはうってかわって、涙を浮かべながら必死に拒絶する。僕だって泣きそうになるのを必死に堪えた。

「頑張れ…」

もうすぐひと月。あいかわらず彼のペースは上がらないが、毎日ちゃんと出社してくる。そして毎日泣きながら業務にあたっている。変わったのは、チームの人数だ。

新人が入ったことを受け、「安心して」一人辞めていった…。

また4名に逆戻りである。しかもそのうちの一人は…。

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

・仕上がりは黒一色です
・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへら鮒会
2. ぐりへら鮒会
3. ぐりへら鮒会

・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴　舟　03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに

転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
２回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

・8書体、8色を御用意しています
・角印も作れます

取扱店：
柴舟（東京都江戸川区）
03-3613-2727
佐伯釣具店（神奈川県川崎市）
044-911-3722
SANSUI川づり館（東京都渋谷区）
03-3499-5025
フィッシング中原（神奈川県川崎市）
044-711-8266
鮒仙人（神奈川県川崎市）
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com

NHC。

今書いているこの原稿の締めきり寸前に、NHCから2005年度の活動案内が届いた。

何やら、今年からカテゴリーの新設があるらしい（まだ確定ではないらしいが）。いったいどうなってしまうのだろうか…。

残念ながら、今年、僕はNHCに参戦出来そうもない。他のトーナメントにも。それはもちろん仕事の関係で。休みがいつ取れるかも分からないし、取れたとしても、トーナメント開催日に取れる保証はどこにもない。そのことを里ちんに伝えると残念がってくれたが、「でも、それはしょうがないですよね」と受け入れてくれた。僕としても、まずは自分の仕事（生活）の方向性をきちんとしないことには、とても釣りに打ち込むどころではないのだ。

トーナメンター、復活への道。

この連載も、いったいこの先どこに向かおうとしているのだろうか。

そして、思いっきり脱線してしまった「底釣りゼミ2005」。みなさん、本当にゴメンナサイ。して、今後はどうなる!?

……というわけで、思いっきり脱線気味の江成アニキ。「底釣りゼミ2005」は、いったいどこに行ってしまったんだぁ～。

まあでも、これもアニキの良さ!?

この連載も、釣技ではなく「人間ドラマ」を主軸に据えているのだから、今月のような江成の「日常の苦悩」をさらけ出して頂くのも、時にはいいのではないだろうか（ちょっと「やりすぎ」だが…）。

僕は、何年かかってもアニキの「復活」に付き合っていくつもりだ。それが、アニキに対しての、僕の「責任」でもある。「復活」がどういう形になるのかは分からないが、二人で失敗を重ねながら試行錯誤していくつもりである。だから…、

ガンバレ江成公隆！

…ところで、「底釣りゼミ2005」は、始めちゃった以上、ちゃんと最後までまとめてくださいよ！　by 里ちん

へら鮒釣りの楽しさを追究し続ける…

へら鮒

Monthly fishing magazine herabuna

No.472 Apr.2005

4

平成17年4月1日発行（毎月1回1日発行）第40巻 第4号 昭和41年5月4日第三種郵便物認可

つれるエサづくり一筋
マルキュー

豪快ペレット系。

寄せる力にあふれた、底釣り用ダンゴエサ。

ペレット系の底釣り用ダンゴエサ。集魚力に優れた特別なペレットが、底のピンポイントにへらを寄せ、食わせます。ペレット独自の重さでウワズリを抑え、明確なアタリがコンスタントに続くようにサポート。釣り堀、管理釣り場、野釣り場と、あらゆる釣り場で使える底釣りエサです。

●ペレ底　330g

いよいよ4月登場

マルキュー株式会社
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4
お問い合わせ　本社・桶川工場:048-728-0909　大阪支店:072-824-0909
四国営業所:0877-44-0909　九州営業所:0942-82-0909
ホームページアドレス　http://www.marukyu.com/
釣り場でエサに困ったら iモード・ホームページ http://www.marukyu.com/i

雑誌　07907-04
4910079070452
00952